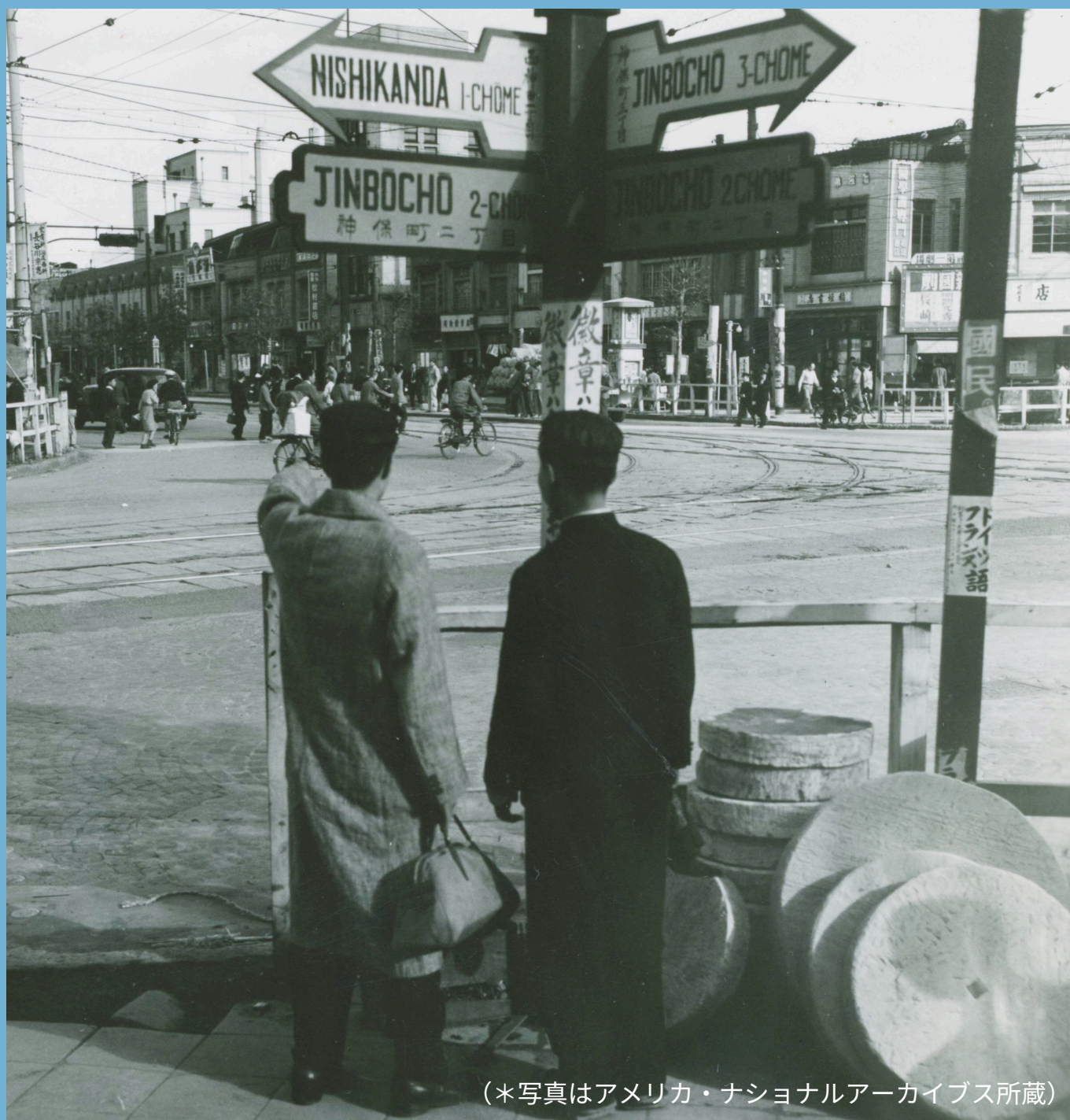


戦争のあと、占領期の風景

写真・映像展示

1945-1952 年に進駐軍が見た日本



(＊写真はアメリカ・ナショナルアーカイブス所蔵)

会期：2025 年 11 月 26 日 (水)～12 月 1 日 (月) 11:00-18:30
(初日の 11 月 26 日は 14:00 から / 最終日の 12 月 1 日は 15:00 まで)

会場：Gallery 蔵 (東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ内)

観覧料：無料

主催：占領期日本の風景をめぐるビジュアルリサーチプロジェクト

共催：NPO 法人連想出版 / お茶ナビゲート

【趣旨文】

戦後 80 年が過ぎ、戦争が遠い過去のものとなりつつあるいま、私たちにとって戦後—戦争のあと—を生きていることとは、どのようなことなのでしょうか？

そのような問題関心のもと、本プロジェクトでは、アメリカのナショナルアーカイブスを中心に関係する図書館や文書館などで調査を行い、戦後まもない占領期の日本で GHQ によって撮影された写真・映像資料を収集して分析する活動を進めてきました。

GHQ は占領期（1945-1952 年）に日本の各地を訪れてさまざまな写真・映像を撮影していますが、そのなかでは空襲の焼け跡や進駐軍のパレードの様子、選挙や労働運動の様子、バラックで生活する人びとや田畑で農作業をする人びとの様子などがうつされており、そこには当時の日本の多様な風景を見ることができるように思います。

そこで本展示会では、戦後まもない日本の風景という観点から、GHQ が占領期に撮影した写真・映像資料を展示いたします。当時 GHQ はどのように日本の風景を見ていたのか、そのまなざしをたどることを通して、私たちが生きる社会を捉えなおす機会となりましたら幸いです。

＊本展示会は、科学研究費・研究基盤（C）「GHQ 関係資料を用いた占領期日本の社会的風景に関するビジュアルエリシテーション」（代表者：木村豊・大正大学）の助成を受けた研究プロジェクトの一環で開催いたします。

【アクセス】

Gallery 蔵

東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ内

東京メトロ 千代田線「新御茶ノ水駅」より徒歩 2 分

JR 中央線・総武線「御茶ノ水駅」より徒歩 3 分

東京メトロ 丸ノ内線「御茶ノ水駅」より徒歩 6 分

都営地下鉄 都営新宿線「小川町駅」より徒歩 6 分

